

## ずいそう

## 山 旅

中 條 基



4月19日高松山山頂。稜線には残雪が残っている。朝、新緑が美しい山麓の尺里を出発し、富士山を見ながら中腹を進み、心地よい汗をかき昼前山頂に到着した。定例の一杯の缶ビールとおにぎり弁当を食べた後、周りの山々の展望を楽しむなかで、今回の執筆の依頼を受けた3月中旬の世の中の状況を思い出しながら、ぼんやりと瞑想にふけていた。

3月中旬…。

国内では、銀行崩壊、失速経済、年金破綻、株価暴落等、先が見えない情勢の中で、北朝鮮問題に替わってイラク戦争が最大のニュースになっていった。米英対国連の抗争、戦争回避か、突入か、大量破壊兵器は有るのか、石油の利権はどうなるのか。多くの評論家が行き先不明の言い訳として、最悪のシナリオ、最良のシナリオを解説してくれる。

3月20日米英軍攻撃開始。

開始後暫らくはイラクの反撃と砂嵐とで長期化の気配が見えたが、意に反してか、予想通りか、フセインと大量破壊兵器の消息は不明のまま、3週間あまりという短期で収束した。

いったい何の為の戦争だったのか、米英及びアラブの大義とは何か。世界がいろいろ言う中で、召集兵、志願兵を含め、米英の兵士、イラクの兵士共に家族を守る為、ひいては国を守る為に黙って戦っている。もし、日本が他国から攻撃を受けたとき、家庭崩壊の中で、戦う若者がいるのだろうか。又、家族の為に自分は戦うだろうか。大きな不安と多少の期待を感じた。

私はいつの間にか、日本の将来を愁ういっばしの評論家の世界に浸っていたが、「もうそろそろ出発よ！」という家内の声で我に返った。

本題に戻ろう。

私はもともと旅行が好きで、見知らぬ場所への憧れが大きかった。

中学の頃は友人と二人で東京から金沢まで、日本ア

ルプスを越えてサイクリングをした。高校から大学にかけてはアルバイトで旅費を貯めて、長期の休みの毎に学割周遊券と一泊500円のユースホテルを活用して、九州、四国、中国、関西、近畿等、自然と旧跡や名勝を求めて一周した。又、会社に入ってから長期休暇を取ることが難しい為、北海道なら道央、道南、道北方面とエリアを細かく分けて、1~3泊のスポット的な旅を夫婦で続けている。これらの旅の殆どはガイドブックやパンフレット、テレビ等で事前に情報をインプットしており、現地で本物と見合って大きさ、美しさに感銘したり、人の多さに失望したりしていた。

その中で、広島で勤務していた40半ばから、家内が入会した山登りの会に連れられて、四季の変わる毎に近隣の山を主体にトレッキングを始め、東京に転勤した現在も続けており、最近ではほぼ毎月1回「山旅」に出かけている。

名の知られていない山でも、うっそうと茂った新緑の樹林の中での社や滝、その先に突然現れる美しい展望や雲海等、常に「一期一会」の世界に遭遇する。

又、同じ山でも初春の残雪、春の草花、初夏の新緑、秋の紅葉と毎回変化に富んでおり、飽きることは無い。一番嬉しいことは、山の名前も場所も忘れても心の隅に残っている美しい画面と突然再開できたときである。子供の頃のマドンナに街角で思いがけず会えた心境で、瞬時にその世界に同化してしまう。従来の旅とは一味違う楽しさが有る。

山に登り心の洗濯をし、帰りに麓の名の知れない温泉でゆっくりと湯に浸り、地酒で身を清める。又、ひとつの楽しみである。

いろいろ自己満足な話を書いたが、最近では家の壁にデジカメで引き伸ばした写真が増えてきている。今後も、歩ける限り山旅を続け、家中をちょっとしたギャラリーにしていきたいと思っている。